

## 神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業

特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク

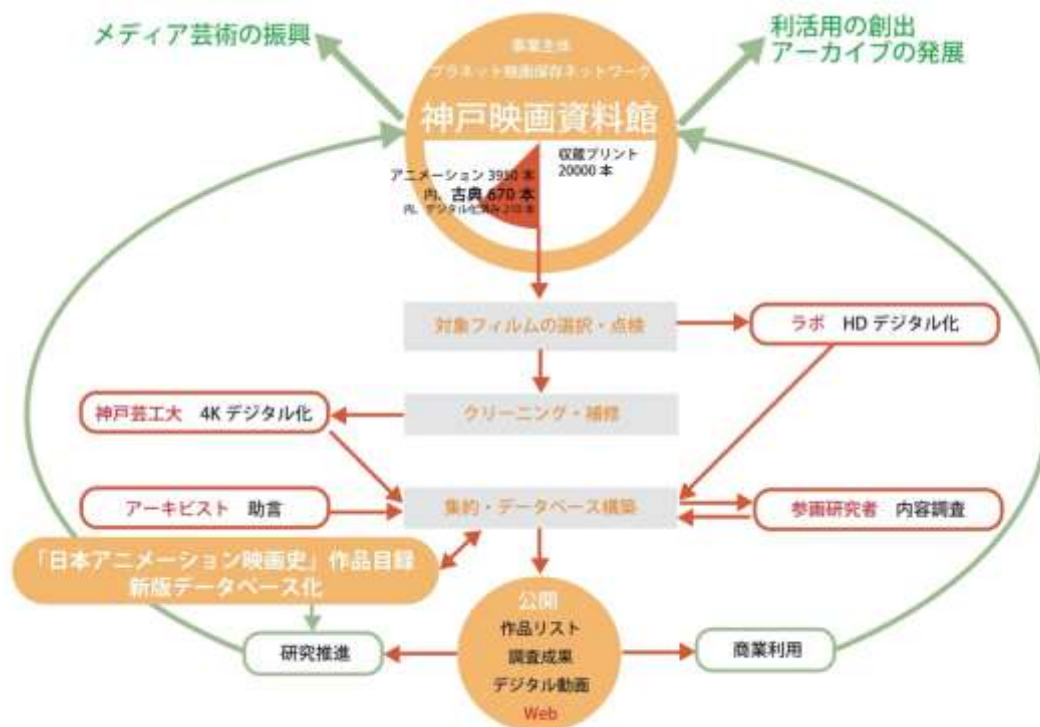
### 概要／課題

神戸映画資料館所蔵アニメーションの中には、長期保存のための複製化やデジタル化ができていないフィルム、さらには題名等が欠落し詳細が不明の作品が多数あるが、本事業によるデジタル化と内容調査により成果を上げている。ネット環境の進化により視聴と情報共有が容易になったことで、映像研究やロストフィルムの発掘がグローバル化しているいま、未だ詳細調査に至っていないコレクションのデジタル化と調査は、資料保存と価値発見促進というアーカイブ業務の両側面から不可欠の手続きと言える。神戸映画資料館所蔵アニメーションのデジタル化と調査研究は、このコレクションを公開・活用するための基盤を構築するもので、日本アニメーション史の可視化の一端を担い、国内のみならず世界のアニメーション振興に資することにつながる。

本団体代表の安井喜雄がかつて企画編集をした書籍「日本アニメーション映画史」(1977年、有文社刊)の作品目録の新版データベース作成は、神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムの調査データと、「日本アニメーション映画史」の作品目録を並行して精査していくことで、基礎資料の利用価値が高まるだけでなく、様々な研究の促進、不明作品の同定、そして新たな作品発掘の可能性が広がる。



## 体制／手法



### ①古典アニメーションフィルムのデジタル化

未デジタル化の神戸映画資料館所蔵フィルムを対象に実施する。

新規収蔵の紙フィルムのデジタル化に着手。

### ②デジタル動画をもとにした内容調査と文献調査

専門家にデジタル動画を送り、リモートワークで調査を行う。

### ③書籍「日本アニメーション映画史」作品目録 新版データベース化

日本のアニメーションを語る上で欠かせない文献「日本アニメーション映画史」の作品目録を基に、本事業のフィルム調査成果などの情報をアップデートし、データベースを作成する。

### ④データベース構築、公開と発表

調査成果を公開し、一部の動画をウェブサイトで公開する。

安井喜雄（神戸映画資料館） …統括

野中和隆（アニメーション作家・研究） …紙フィルムデジタル化

神戸芸術工科大学…デジタル化

佐崎順昭（映画史研究） …内容調査

板倉史明（映画研究／神戸大学） …検閲時情報調査

佐野明子（アニメーション研究／同志社大学） …文献調査

松山ひとみ（アーキビスト／大阪中之島美術館） …著作権調査

上田学（映画研究／神戸学院大学） …データベース構築協力

## 成果

デジタル動画を基にした調査成果を公開し、一部の動画をウェブサイトで公開。

<https://kobe-eiga.net/cinema/research/>

神戸発掘映画祭 2023（10月開催）にて、成果報告会を実施予定。

「日本アニメーション映画史」の新版作品目録については、ひとまず1960年代初頭までの古典アニメーションを対象に日本語版を完成させた後、英語版を作成し公開したい。また、本書の著者・渡辺泰氏が遺した膨大なアニメ資料が故人の遺志で安井に託される予定である。その膨大な資料を一括保存し、調査し、目録化し、劣化の激しいものはデジタル化した。これらのほか、基礎資料として有用な文献のデジタル公開等、将来的に国内外の研究者が容易に閲覧できる環境を整備することを目指す。